

地域のファン作り、移住・観光促進の第一歩！
「おてつだい×旅＝おてつたび」を活用し選択されるマチへ
猿払村おてつたび事務局（猿払村）



<猿払村おてつたび事務局>

【組織等の概要】

- 事務局運営：猿払村 企画政策課
- 猿払村：人口2,653人（令和3年11月1日現在）
- 通年雇用の創出、「ワクワクする地域」を目指し、二大基幹産業（漁業・酪農業）とも連携可能な産業創出を目指して、令和2年10月に農業（施設園芸）に着手。
- 春～秋にイチゴ、秋～冬に野菜をビニールハウスで栽培。

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 猿払村企画政策課の職員が、令和3年2月に（株）おてつたび代表取締役CEO永岡さんとSNSで対談したことで詳しく「おてつたび」のを知ることに。令和3年3月のイチゴの定植に合わせおてつたびの募集を開始。
- ◆ 一回の応募定員は2名。猿払村までの旅費は自費。宿泊は調理器具を完備した移住体験住宅を無償提供。
- ◆ 第1回目の滞在期間は5日間。初日・最終日は移動日。2日間で定植作業を実施。残る1日は村をご案内する日とした。
- ◆ 2回目以降は、滞在期間を10日間に延長。新たに、おためし地域おこし協力隊として、隊員活動の体験を追加。移動日を除き7日間でおてつたびを行い、滞在中1日設定する休息日に村をご案内。
- ◆ 「日本最北の村」という理由が参加の決め手という方もいる。大都市圏在住の大学生、特に女性が多いが、北海道在住の方の参加もあった。また、地方創生に関心を持つ方が半数以上だが、農業を学んでいる学生もいた。
- ◆ 地域おこし協力隊がカメラマンとして参加者に一日密着し、撮影する「おもてなしフォト」により旅の思い出づくりを企画。
- ◆ 「おてつたび」実施後、参加者とのつながりを構築するため、ZoomにてOB・OG座談会を開催。

◇「おてつたび」の仕組み

- 人手不足の事業者と、お手伝いをすることにより報酬を得ながら地方に旅行がしたいと思っている社会人や学生等をマッチングするプラットフォーム。
- 専用サイトから行ってみたい地域の事業者を選択し、マッチングが成立後参加可能。
- 「おてつたび」の報酬は事業者が自由に設定可能。（株）おてつたびから後払いで参加者に支払われる。



<おもてなしフォト>



<様々な品種のイチゴ>

【取組の成果】

- ・おてつたび参加者（令和3年3月～11月末）：10名。
- ・「おてつたびがあったから猿払村を知ることができた。」との声が多数。
- ・参加者の家族から猿払村にふるさと納税が寄せられることも。
- ・「おてつたび」実施後、猿払村や宗谷地域に友達を連れて再訪するなど、継続的なつながりが生まれている。

【今後の展望】

- 「おてつたび」の取組から猿払村での人手不足を解消するとともに猿払ファンの創出を図る。
- 「おてつたび」を村内の人手不足に悩む事業者にも紹介し活用を模索する。



<おてつたび支援メンバー>



<移住体験住宅>